

世界の絶景

# 教会&寺院

The World Beautiful Churches & Temples



# Contents

12	サン・ピエトロ大聖堂 / パチカン市国	076
13	メテオラの修道院群 / キリシャ	080
14	アトス山の修道院群 / キリシャ	082

<b>* Column 1 *</b>	「キリスト教」について	084
---------------------	-------------	-----

## Chapter 5 Middle East & Africa 中東&アフリカ 086

01	スルタン・アフメト・モスク / トルコ	088
02	セリミエ・モスク / トルコ	092
03	イマーム・モスク / イラン	094
04	ナスィーロール・モスク / イラン	095
05	シャー・チェラーグ廟 / イラン	096
06	シェイク・ザイド・モスク / アラブ首長国連邦	097
07	マスジド・アルハラーム / サウジアラビア	098
08	岩のドーム / イスラエル	100
09	ムハンマド・アリー・モスク / エジプト	101
10	聖カタリナ修道院 / エジプト	102
11	ラリベラの岩窟教会群 / エチオピア	103
12	ハッサン2世モスク / モロッコ	104
13	ジェンネの大モスク / マリ	105

<b>* Column 2 *</b>	「イスラム教」について	106
---------------------	-------------	-----

<b>* Column 3 *</b>	「ヒन्दウー教」について	107
---------------------	---------------	-----

## Chapter 6 Asia アジア 108

01	アムリトサル黄金寺院 / インド	110
02	アーディナータ寺院 / インド	112
03	ミーナクシ・アンマン寺院 / インド	114
04	ダンブッラの黄金寺院 / スリランカ	115
05	スワヤンブナート / ネパール	116
06	シュエダゴン・パゴダ / ミャンマー	117
07	バガンの寺院群 / ミャンマー	118
08	ワット・シェントーン / ラオス	122
09	ワット・プラケーオ / タイ	124
10	ワット・アルン / タイ	125
11	バトゥ洞窟のヒन्दウー教寺院 / マレーシア	126
12	プトラ・モスク / マレーシア	127
13	タナ・ロット寺院 / インドネシア	128
14	トゥルナン寺(ジョカン) / 中国	130
15	懸空寺 / 中国	131
16	天壇 / 中国	132
17	伏見稲荷大社 / 日本	134
18	厳島神社 / 日本	135

<b>* Column 4 *</b>	「仏教」について	136
---------------------	----------	-----

<b>* Column 5 *</b>	世界の宗教遺跡	137
---------------------	---------	-----

## Chapter 7 North & South America 南北アメリカ 138

01	モントリオール・ノートルダム聖堂 / カナダ	140
02	セント・パトリック大聖堂 / アメリカ	141
03	サンフランシスコ・デ・アシス教会 / アメリカ	142
04	ラス・ラハス教会 / コロンビア	143

World Map	004
-----------	-----

## Chapter 1 North & West Europe 北西ヨーロッパ 006

01	ボルグンド・スターヴ教会 / ノルウェー	008
02	テンペリアウキオ教会 / フィンランド	009
03	ウェストミンスター寺院 / イギリス	010
04	カンタベリー大聖堂 / イギリス	012
05	セント・ポール大聖堂 / イギリス	014
06	モン・サン・ミシエル / フランス	016
07	ノートルダム大聖堂 / フランス	020
08	サント・シャベル / フランス	022
09	シャルトル大聖堂 / フランス	023

## Chapter 2 Central Europe 中央ヨーロッパ 024

01	ケルン大聖堂 / ドイツ	026
02	ウルム大聖堂 / ドイツ	028
03	シュテファン大聖堂 / オーストリア	029
04	メルク修道院 / オーストリア	030
05	聖ヴィート大聖堂 / チェコ	032
06	マーチャーシュ教会 / ハンガリー	034
07	聖母被昇天教会 / スロベニア	035

## Chapter 3 East Europe 東ヨーロッパ 036

01	リラ修道院 / ブルガリア	038
02	アレクサンドル・ネフスキー大聖堂 / ブルガリア	040
03	聖アンドリーイ教会 / ウクライナ	041
04	ツミンダ・サメバ教会(ゲルゲティ・トリニティ教会) / ジョージア(グルジア)	042
05	カザン大聖堂 / ロシア	043
06	血の上の救世主教会 / ロシア	044
07	聖イサアク大聖堂 / ロシア	048
08	キジ島の木造教会群 / ロシア	050
09	聖ワシリイ大聖堂 / ロシア	052

## Chapter 4 South Europe 南ヨーロッパ 054

01	ジェロニモス修道院 / ポルトガル	056
02	サンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂 / スペイン	058
03	エル・エスコリアル修道院 / スペイン	060
04	アルムデナ大聖堂 / スペイン	061
05	サグラダ・ファミリア / スペイン	062
06	メスキータ(コルドバの聖マリア大聖堂) / スペイン	064
07	ドゥオーモ(ミラノ大聖堂) / イタリア	066
08	サン・マルコ聖堂 / イタリア	068
09	サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂 / イタリア	070
10	シエナ大聖堂 / イタリア	074
11	パンテオン / イタリア	075



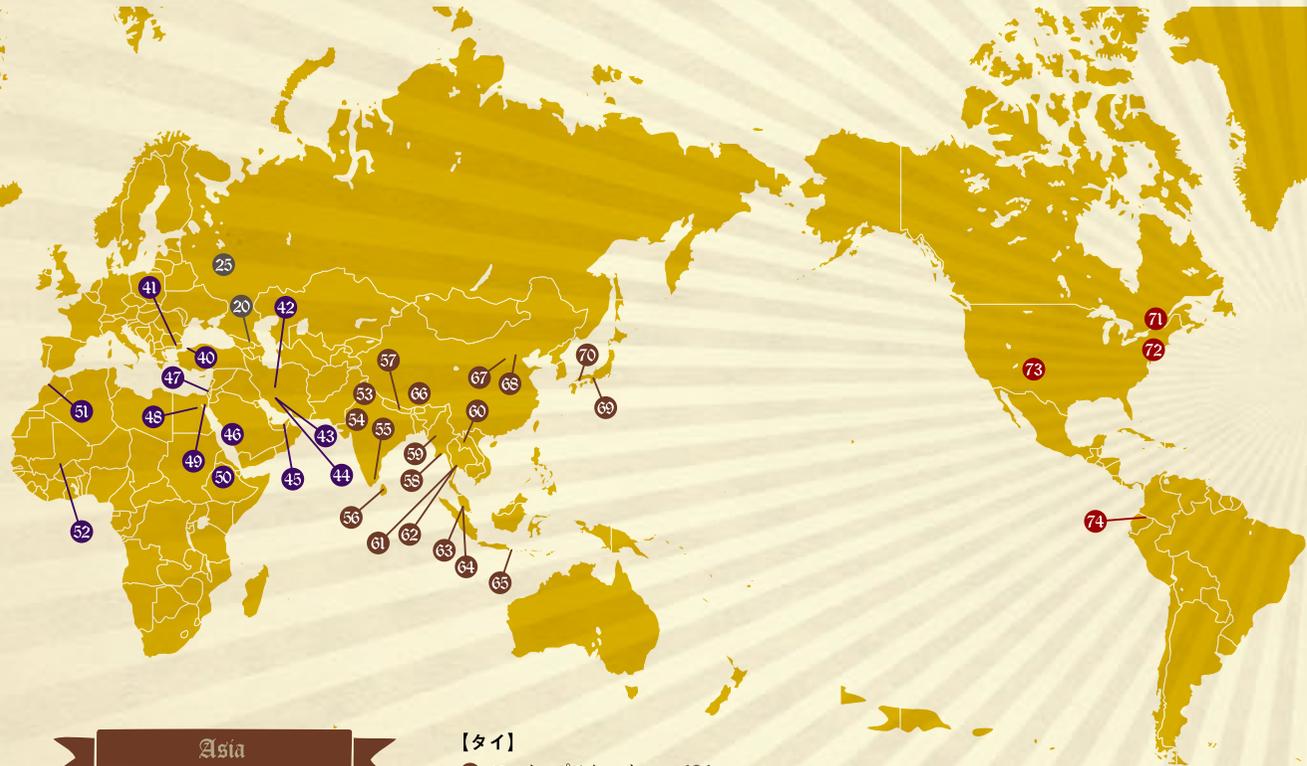
# World Map

## Middle East & Africa

- 【トルコ】
- 40 スルタン・アフメト・モスク → p.088
- 41 セリミア・モスク → p.092
- 【イラン】
- 42 イマーム・モスク → p.094
- 43 ナスィーロール・モスク → p.095
- 44 シャー・チェラーグ廟 → p.096

- 【アラブ首長国連邦】
- 45 シェイク・ザイド・モスク → p.097
- 【サウジアラビア】
- 46 マスジド・アルハラーム → p.098
- 【イスラエル】
- 47 岩のドーム → p.100
- 【エジプト】
- 48 ムハンマド・アリー・モスク → p.101

- 49 聖カタリナ修道院 → p.102
- 【エチオピア】
- 50 ラリベラの岩窟教会群 → p.103
- 【モロッコ】
- 51 ハッサン2世モスク → p.104
- 【マリ】
- 52 ジェンネの大モスク → p.105



## Asia

- 【インド】
- 53 アムリトサル黄金寺院 → p.110
- 54 アーディナータ寺院 → p.112
- 55 ミーナクシ・アンマン寺院 → p.114
- 【スリランカ】
- 56 ダンブラの黄金寺院 → p.115
- 【ネパール】
- 57 スワヤンブナート → p.116
- 【ミャンマー】
- 58 シュエダゴン・パゴダ → p.117
- 59 バガンの寺院群 → p.118
- 【ラオス】
- 60 ワット・シェントーン → p.122

- 【タイ】
- 61 ワット・プラケーオ → p.124
- 62 ワット・アルン → p.125
- 【マレーシア】
- 63 バトゥ洞窟のヒンドゥー教寺院 → p.126
- 64 プトラ・モスク → p.127
- 【インドネシア】
- 65 タナ・ロット寺院 → p.128
- 【中国】
- 66 トゥルナン寺(ジョカン) → p.130
- 67 懸空寺 → p.131
- 68 天壇 → p.132
- 【日本】
- 69 伏見稲荷大社 → p.134
- 70 厳島神社 → p.135

## North & South America

- 【カナダ】
- 71 モントリオール・ノートルダム聖堂 → p.140
- 【アメリカ】
- 72 セント・パトリック大聖堂 → p.141
- 73 サンフランシスコ・デ・アシス教会 → p.142
- 【コロンビア】
- 74 ラス・ラハス教会 → p.143

## North & West Europe

- 【ノルウェー】
- 1 ボルグンド・スターヴ教会 → p.008
- 【フィンランド】
- 2 テンペリアウキオ教会 → p.009

## Central Europe

- 【ドイツ】
- 10 ケルン大聖堂 → p.026
- 11 ウルム大聖堂 → p.028
- 【オーストリア】
- 12 シュテファン大聖堂 → p.029
- 13 メルク修道院 → p.030

## East Europe

- 【ブルガリア】
- 17 リラ修道院 → p.038
- 18 アレクサンドル・ネフスキー大聖堂 → p.040
- 【ウクライナ】
- 19 聖アンドリーイ教会 → p.041
- 【ジョージア(グルジア)】
- 20 ツミンダ・サメバ教会(ゲルゲティ・トリニティ教会) → p.042 (左ページ参照)
- 【ロシア】
- 21 カザン大聖堂 → p.043
- 22 血の上の救世主教会 → p.044
- 23 聖イサアク大聖堂 → p.048
- 24 キジ島の木造教会群 → p.050
- 25 聖ワシリイ大聖堂 → p.052 (左ページ参照)

## North & West Europe

- 【ポルトガル】
- 26 ジェロニモス修道院 → p.056
- 【スペイン】
- 27 サンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂 → p.058
- 28 エル・エスコリアル修道院 → p.060
- 29 アルムデナ大聖堂 → p.061

- 【イギリス】
- 3 ウェストミンスター寺院 → p.010
- 4 カンタベリー大聖堂 → p.012
- 5 セント・ポール大聖堂 → p.014
- 【フランス】
- 6 モン・サン・ミシェル → p.016

- 【チェコ】
- 14 聖ヴィート大聖堂 → p.032
- 【ハンガリー】
- 15 マーチャーシュ教会 → p.034
- 【スロベニア】
- 16 聖母被昇天教会 → p.035



- 30 サグラダ・ファミリア → p.062
- 31 メスキータ(コルドバの聖マリア大聖堂) → p.064
- 【イタリア】
- 32 ドゥオーモ(ミラノ大聖堂) → p.066
- 33 サン・マルコ聖堂 → p.068
- 34 サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂 → p.070
- 35 シエナ大聖堂 → p.074

- 7 ノートルダム大聖堂 → p.020
- 8 サント・シャペル → p.022
- 9 シャルトル大聖堂 → p.023

- 36 パンテオン → p.075
- 【バチカン市国】
- 37 サン・ピエトロ大聖堂 → p.076
- 【ギリシャ】
- 38 メテオラの修道院群 → p.080
- 39 アトス山の修道院群 → p.082



05 セント・ポール大聖堂  
【イギリス】



01 ボルグンド・スターヴ教会  
【ノルウェー】



06 モン・サン・ミシェル  
【フランス】



02 テンペリアウキオ教会  
【フィンランド】



07 ノートルダム大聖堂  
【フランス】



03 ウェストミンスター寺院  
【イギリス】



08 サント・シャペル  
【フランス】



04 カンタベリー大聖堂  
【イギリス】

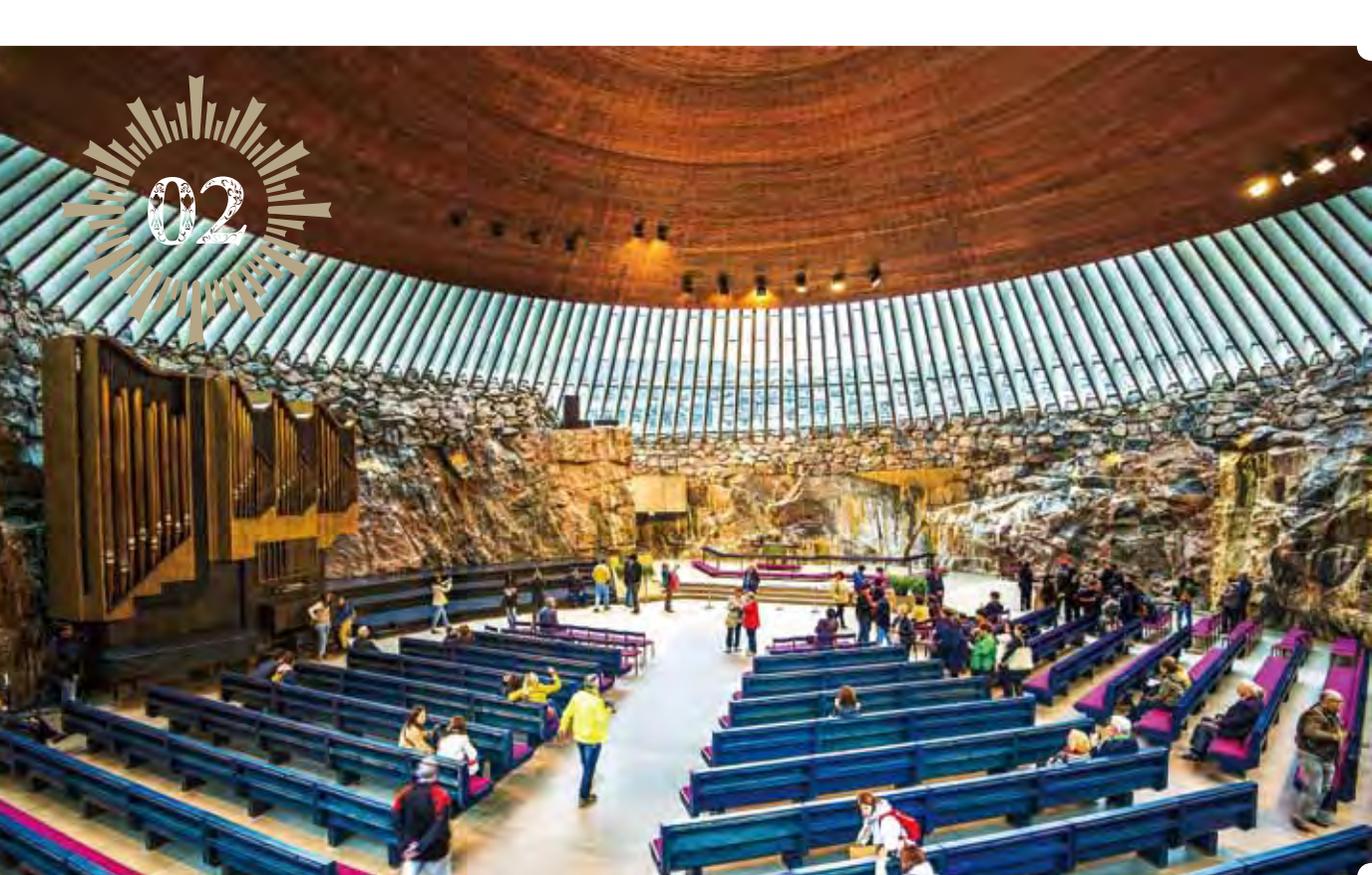


09 シャルトル大聖堂  
【フランス】

# Chapter 1 North & West Europe

## 北西ヨーロッパ

古代の文化の影響を受けた素朴な教会や、王室の権威を示す巨大な大聖堂、そして、豪華で美しいステンドグラスなど、北西ヨーロッパの個性豊かな教会と寺院には、地域の歴史や芸術性がよく現れている。



## Temppeliaukio Church

## Borgund Stave Church

### テンペリアウキオ教会

### ボルグンド・スターヴ教会

＊フィンランド＊

＊ノルウェー＊

大岩をくり抜いて造られた  
近代的な「ロックチャーチ」

北欧神話の面影を残す  
ヴァイキングが造った木造教会

フィンランドの首都ヘルシンキ郊外にあるプロテスタントの教会。大岩を5～10m程掘り下げて築かれており、近代的かつ幻想的なデザインが人気を呼んでいる。

ノルウェー西部のボルグンド村に建つ、プロテスタントの教会。ヴァイキング船と共通する独特の装飾のほか、3重の身廊を備えた「ソグン型」で造られている。

＊ **Data** ＊

■アクセス：ヘルシンキ中央駅からカウツパ・コルケア・コウルトゥ駅までトラムで約15分、駅から徒歩約5分。

■ベストシーズン：6月～8月

■開館時間：（日曜は11:45～）  
・6～8月 → 10:00～17:45 ・9～5月 → 10:00～17:00

＊ **Data** ＊

■アクセス：フロムからバスで約1時間半。

■ベストシーズン：6月～8月

■開館時間：・8～9月 → 8:00～20:00  
・10～7月 → 10:00～17:00

＊ **Recommend** ＊

■教会の上に登ろう：テンペリアウキオ教会の大岩には小道が整備されており、上まで登ることができる。上部には公園のようなどかな空間が広がり、市民の憩いの場となっている。

＊ **Recommend** ＊

■「黒い教会」：真っ黒な外観から、別名「黒い教会」とも呼ばれるボルグンド・スターヴ教会。これは、木の腐食を防ぐために塗られるタールによるもので、4年に1度塗り替えられている。

明るい太陽光が差し込む石造りの近代的な教会

フィンランドでは、フィンランド正教会とフィンランド福音ルター派教会が国教として位置付けられており、特に後者の教会員は国民の約八割を占め、現在九つの教区で構成されている。

首都ヘルシンキもこの教区のひとつで、一九三〇年ごろからテンペリアウキオ地区に教会を造る計画が持ち上がっていた。第二次大戦時には一度計画が中断されたが、一九六九年にようやくテンペリアウキオ教会が完成した。

同国出身のスコマライネン兄弟が設計したこの教会は、小高い大岩をくり抜いて造られており、別名「ロックチャーチ」とも呼ばれている。閑静な住宅街にたたずむその外観は、ごっこつとしていて教会らしからぬ趣。しかし、内部は一八〇枚のガラス窓から柔らかな太陽光が差し込む、明るい空間となっている。また、外壁同様、岩盤をそのまま使用している内壁は音響効果に優れており、コンサートホールとして利用されることも多い。こうした特徴から観光地としても人気があり、年間約五〇万人もの人々が訪れるという。

岩肌がむき出しになった教会の内部。華美な装飾がまったくない分、窓から差し込む太陽光によって生まれる、光と影のコントラストが際立っている（写真：Sean Pavone / Shutterstock.com）。

教会にちりばめられたヴァイキングの文化

一一三〇～一三五〇年のヨーロッパ北部では、くぎやねじを使わず、支柱や厚板（スターヴ）を組んで築く「スターヴ教会」が数多く建てられた。建造にはキリスト教建築に加えてヴァイキング船の造船技術が用いられ、最盛期には一〇〇棟以上が存在したという。

現在、スターヴ教会はノルウェーに三九しか残っていないが、ボルグンド・スターヴ教会は、特にその保存状態の良さで知られる。教会が築かれたの

は一一八〇～一二五〇年ごろで、当初はカトリックの聖堂だったが、宗教改革後にプロテスタントの礼拝堂として改装された。建物を固定する石の基礎とスターヴ同士を連結させた強固な壁により、今も当時の威風を保っている。

また、ほかのスターヴ教会同様、船底のような天井と、魔よけの龍頭を屋根に持ち、さらに壁や柱には、北欧神話の動物をモチーフにした彫刻が施されている。こうした装飾はヴァイキング船と同じもので、人々の信仰が北欧神話からキリスト教へと移行しつつある時代の象徴といえるだろう。

木の風合いを残しつつも、タールを塗られ黒くなった教会は重厚感たっぷり。うるこのような屋根や、にらみを利かせている飾り龍からは、ヴァイキング文化の面影が感じられる。

数々の著名人が眠る教会

テムズ川左岸に位置するウェストミンスター地区は、ロンドンのなかでも数多くの歴史的建造物が点在している場所。特に、ウェストミンスター寺院はイギリス王室と古くから関わりがあり、一〇六六年から現在に至るまで、戴冠式や葬儀といった王室行事が執り行なわれてきた。そのため、この教会は王室直属の教会とされており、教区からも独立した存在となっている。

伝説によると、ウェストミンスター寺院の起源は七世紀、東サクソン王が聖ペテロを記念する教会を建てたのが始まりとされる。その後、九六〇年にベネディクト派の修道士が修道院を建て、二四五年にはヘンリー三世によってフランス・ゴシックを模倣した寺院として大幅に改修された。一四世紀後半には現在の建物の大半が完成したものの、建設は一八世紀まで続けられた。

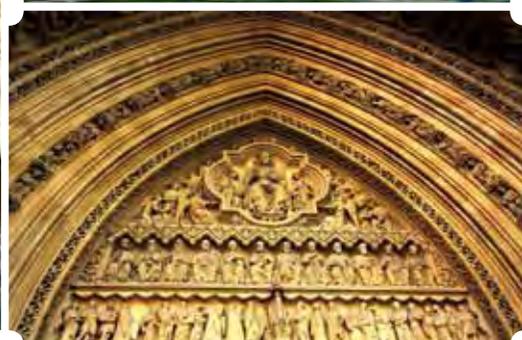
また、内部には三〇〇〇の墓と四〇〇の記念碑があり、歴代国王をはじめ、アイザック・ニュートンやチャールズ・ダーウィンなど、英国史上の著名人が数多く埋葬されており、墓所としての役割も担っている。



# Westminster Abbey

ウェストミンスター寺院

＊イギリス＊



【左】美しいアーチ天井が続く、寺院内部の廊下。【右/上】ウェストミンスター寺院の敷地内に建つ、ヘンリー7世記念聖母礼拝堂。ヘンリー7世の命によって建てられたため、この名前が付けられた。【右/下】北の翼廊の入り口の上部を飾るレリーフ。最上段にはキリストが、2段目には十二使徒が並んでいる。

**＊ Recommend ＊**

■聖マーガレット教会：カトリックの聖女である聖マーガレットを記念したイングランド国教会の教会で、ウェストミンスター寺院と同じ敷地内にある。特に、ヘンリー7世の長男であるアーサー王の婚約を記念して造られた、東側窓のステンドグラスが美しいことで知られている。

■もう一つのウェストミンスター大聖堂：ウェストミンスター寺院と同じ地区にある、イギリスのカトリックの総本山。ビザンティン様式で建設されたこの大聖堂は、赤と白で構成されたレンガ造りの外観と高さ83mの「聖エドワードタワー」が最大の特徴で、身廊はイギリスの教会で随一の広さを誇る。

**＊ Data ＊**

■アクセス：地下鉄ウェストミンスター駅から徒歩約5分。

■ベストシーズン：5月～8月

■開館時間：(日曜休館)

- ・月～金曜 → 9:30～18:00
- ・土曜 → 9:30～13:30

歴代国王の戴冠式を見届けてきたイギリス王室直属の教会

イギリスの首都、ロンドン中心部のウェストミンスターにある、イングランド国教会の教会。ウェストミンスター宮殿や聖マーガレット教会と共に、1987年に世界遺産に登録された。

【上】ユニークな表情のガーゴイル。魔よけの意味合いのほか、雨どいの機能を持っている。【下】北の翼廊のファサード(正面)。ゴシック様式のバラ窓と、建物の強度を増すため塔の横に飛び出たフライング・バットレス(飛び梁)が、見事に調和している。

再開し、一八八〇年に現在の大聖堂が完成した。高さ一五七メートルのふたつの尖塔には、細部に至るまで緻密な彫刻が施され、美しくも重厚な雰囲気をもたえている。南側には、バイエルン王ルードヴィヒ二世が寄贈した「バイエルン窓」という五枚のステンドグラスがあり、内部を色鮮やかに彩る。

東方の三博士の遺骨が眠るドイツを代表する大聖堂

紀元前三九〇年ごろに古代ローマ帝国の植民都市として築かれ、早くからキリスト教が伝わっていたケルン。この町のシンボルといえるのが、世界最大のゴシック建築、ケルン大聖堂だ。四世紀にはすでに起源となる聖堂があり、現在の建物は三代目にあたる。

一一六四年、神聖ローマ皇帝フリードリヒ二世が、ミラノから持ち帰った「東方の三博士」の聖遺物をこの聖堂に安置したことで多くの巡礼者が訪れるようになり、町も発展を遂げた。しかし、二四八年の火災で聖堂は焼失。同年に改修工事が始められたが、宗教改革を発端とする財政難から、一六〇九年に改修工事が中断された。

そして一八四二年、ようやく工事が再開し、一八八〇年に現在の大聖堂が完成した。高さ一五七メートルのふたつの尖塔には、細部に至るまで緻密な彫刻が施され、美しくも重厚な雰囲気をもたえている。南側には、バイエルン王ルードヴィヒ二世が寄贈した「バイエルン窓」という五枚のステンドグラスがあり、内部を色鮮やかに彩る。



# Cologne Cathedral

ケルン大聖堂

＊ドイツ＊



【左】ケルン大聖堂内部。祭壇裏にはステンドグラスがはめ込まれ、その上には「クリアストリー」と呼ばれる採光用の高窓が並ぶ。【右／上】ケルン大聖堂とケルンの街並みを空から眺める。【右／下左】キリストにまつわる彫刻が施された正面扉。扉の上部には、「ティンパヌム（タンパン）」と呼ばれる半円または丸みを帯びた三角形の壁面装飾がある。【右／下右】鮮やかに彩られた「バイエルン窓」の1つ。

＊ Recommend ＊

■現代アートのステンドグラス：大聖堂の南側の窓にある、モザイク柄のステンドグラス。これは第二次大戦の際に以前のステンドグラスが破損したため、はめ替えられたもの。現代絵画の巨匠ゲルハルト・リヒターの作品だが、その近代的なデザインについてはいまだに賛否両論があるという。

■大聖堂前のクリスマスマーケット：クリスマスシーズンになると、大聖堂前の広場には赤いテントが軒を連ね、クリスマスマーケットが開催される。夜には聖堂もライトアップされ、周囲のイルミネーションと相まって、よりいっそう華やいだ雰囲気味わえる。

＊ Data ＊

■アクセス：フランクフルトからケルン中央駅まで特急列車で1～2時間、駅からすぐ。

■ベストシーズン：6月～9月

■開館時間：  
・5～10月 → 6:00～21:00  
・11～4月 → 6:00～19:30

600年以上の歳月をかけて完成した世界最大のゴシック建築

ドイツ西部の都市ケルンを流れるライン川沿岸に建つカトリックの大聖堂。1996年に世界遺産に登録されたが、周囲の高層建築物計画による景観破壊のため、一時は危機遺産に指定されていた。

【上】天に向かって双塔がそびえ立つ西ファサード（正面）。「天」を目指して建てられており、その高さは157mに達する。【下】ライン川に架かるホーエンツォレルン橋とケルン大聖堂。この橋越しに見る大聖堂は、ケルンを代表するビュースポットとなっている。



# Melk Abbey

メルク修道院

＊ オーストリア ＊

ドナウ川下流域に位置するヴァッハウ渓谷は、古城や修道院が点在する美しい景観を誇る。特にひととき目を引く存在が、高さ六〇メートルの崖の上にそびえるメルク修道院だ。修道院の設立は一〇八九年、中世のオーストリアを治めていたバーベンベルク家が、所有する城のひとつをベネディクト会の修道院として寄進したことに始まる。やがて修道院は、写本の生産と収集の中心地として知られるようになる。

白と黄で彩られた宮殿のような姿は、一七〇二〜一七三六年の間に改築されたもの。全長は約三三〇メートルに達し、「信仰の要塞」との異名を持つ。内部には見事なフレスコ画と壮麗な図書館を備え、オーストリア・バロック様式の最高傑作と称されている。

一七八〇年、神聖ローマ皇帝ヨゼフ二世は、国内の修道院を解散させる政策を出し、その財産を接収。しかし、メルク修道院は長年の写本収集と研究の実績から解散を免れた。修道院では現在も三〇人の修道士が生活し、併設する小学校と共に活動を続けている。

今なお三〇人の修道士が暮らす  
世界有数の修道場



【左】大理石や金が惜しげもなく使われた主祭壇と、壁面や天井を埋め尽くすように描かれたフレスコ画。オーストリア・バロック様式の最高峰と称されるのも納得の美しさだ(写真: Igor Plotnikov / Shutterstock.com)。【右】断崖の上に建つメルク修道院。「横に伸びた摩天楼」とも呼ばれている。また、マリー・アントワネットがフランスに嫁ぐ途中、ここで一夜を過ごしたという逸話もある。

＊ **Recommend** ＊

■無限らせん階段：18世紀のバロック時代、見た人に錯覚を起こさせる「だまし絵」が流行し、メルク修道院の内装にも、角度によって立体的に見える天井画など、さまざまな仕掛けが施された。特に、図書室から礼拝堂へと続くらせん階段には、階段の裏側にも豪華な装飾と絵が施されており、階段が無限に続いているかのような錯覚を覚える。

■ヴァッハウ渓谷クルーズ：全長3000kmのドナウ川流域で、最も美しいと称されるヴァッハウ渓谷。特に、メルク〜デュルンシュタイン〜クレムスにかけては見どころが多く、歴史ある建造物を眺めながら遊覧できるクルーズは大人気だ。

＊ **Data** ＊

■アクセス：ウィーン西駅からメルク駅まで列車で約1時間15分、駅から徒歩約10分。

■ベストシーズン：6月～9月

■開館時間：4、10月 → 9:00～16:30  
5～9月 → 9:00～17:30  
11～3月 → ガイドツアーのみ

美しいヴァッハウ渓谷を見渡す  
崖の上の「信仰の要塞」

オーストリア北部のドナウ川下流域、ヴァッハウ渓谷にあるベネディクト会派の修道院で、世界的に有名な修道場である。2000年には、「ヴァッハウ渓谷の文化的景観」の一部として世界遺産に登録された。

【上】白と黄の外観が鮮やかなメルク修道院のファサード(正面)。【下】10万冊もの蔵書量を誇る、修道院内の図書館。寄木細工で造られた本棚には、天井から床までびっしりと書物が収納されている(写真: Igor Plotnikov / Shutterstock.com)。

# Chapter 3

# East Europe

## 東ヨーロッパ

キリスト教の一派である正教会の大聖堂や教会が多い東ヨーロッパ。カラフルなフレスコ画やタマネギ型のドームなど、一度見たら忘れられないほどの個性豊かな芸術性が見どころだ。

聖ワシリイ大聖堂(ロシア)。



08 キジ島の木造教会群  
【ロシア】



01 リラ修道院  
【ブルガリア】



09 聖ワシリイ大聖堂  
【ロシア】



02 アレクサンドル・ネフスキー大聖堂  
【ブルガリア】



03 聖アンドリーイ教会  
【ウクライナ】



04 ツミンダ・サメバ教会  
(ゲルゲティ・トリニティ教会)  
【ジョージア/グルジア】



05 カザン大聖堂  
【ロシア】



06 血の上の救世主教会  
【ロシア】



07 聖イサアク大聖堂  
【ロシア】



グリボエドフ運河沿いに建つ血の上の救世主教会。カラフルに彩色された外観がひときわ目を引く。

皇帝襲撃の地に建つ  
かつての皇帝にささげられた教会

ロシア西部の都市サンクトペテルブルクにあるロシア正教の聖堂で、正式名称は「ハリストス復活大聖堂」。1990年には「サンクトペテルブルク歴史地区と関連建造物群」の一部として、世界遺産に登録された。

## Church of the Savior on Blood

血の上の救世主教会

＊ ロシア ＊



教会内部の壁と天井を埋め尽くすようにして描かれた、複雑かつ緻密なモザイク画のアイコン。厳密な様式にのっとりて聖書の場面やさまざまな聖人を表現しており、中央のドームには「全能者ハリストス(キリスト)」が描かれている。

### 教会がたどった数奇な運命

かつてのロシア帝国の首都であり、現在は市内の観光名所の多くが世界遺産に登録されている歴史ある都市サンクトペテルブルク。なかでも、中世ロシア建築の影響を色濃く受け、最も美しいと称されるのが、血の上の救世主教会だ。このユニークな名称は、一八八一年にロシア史を揺るがした事件に基づいている。

時のロシア皇帝アレクサンドル二世は、農奴解放をはじめとする大改革を行なった人物で、「解放皇帝」と呼ばれた。しかし、解放された農奴は、その後資産家に奴隷として売られただけで、現状は変わらなかった。そのため民衆は次第に反発するようになった。そして一八八一年三月一日、革命家ソフィア・ペロフスカヤの指揮の下、テロリストがアレクサンドル二世に対して爆弾テロを決行。瀕死の重症を負った皇帝は冬宮殿に担ぎ込まれたが、その一時間後に逝去した。

的要素の強い場面を描いたモザイク画で装飾されている。その後、この悲劇の教会は数奇な運命をたどることとなる。ロシア革命後はソビエト政権によって破壊・略奪され、第二次大戦中も野菜倉庫としてぞんざいな扱いを受けた後、三三年もの間放置されてしまった。しかし一九九七年、二七年間の修復期間を経て、モザイク画の博物館という形で六〇年ぶりに見事復活を果たしたのである。



【上】ライトアップされる夜間は、屋間とはまた違う雰囲気。【左】トパーズやラピスラズリなどの宝石や大理石、美しいモザイク画で飾られた「イコノスタシス(聖所と至聖所を仕切る壁)」。【右/上】それぞれ装飾が異なるタマネギ型のドーム。全部で9つあり、金やエナメルで塗装されている。【右/下左】アレクサンドル2世が殺害され、血を流した地点を覆う天蓋(てんがい)。【右/下右】教会の外にあるハリストス(キリスト)のアイコン(聖画像)。

### Recommend

■運河クルーズ：サンクトペテルブルクを流れるグリボエードフ運河。運河の全長は約5kmと短いですが、運河に沿った河岸通りには、血の上の救世主教会やカザン大聖堂など、多くの観光名所が並んでおり、観光船でのクルーズが人気を博している。



■冬宮殿：爆弾テロによって瀕死の重症を負ったアレクサンドル2世が、最後に訪れたいと言ったのが、襲撃地点からわずか1km足らずの距離にある冬宮殿だった。冬宮殿はかつてのロシア皇帝の冬季の宮殿として建立されたロココ建築の壮麗な建物で、現在はエルミタージュ美術館の本館として使用されている。ロシアが誇る至宝の数々は、見ごたえ満点だ。

### Data



- アクセス：地下鉄ネフスキープロスペクト駅から徒歩約15分。
- ベストシーズン：6月～8月
- 開館時間：(水曜休館)  
・通年 → 10:30～18:00

## 世界の絶景 教会&寺院

2015年3月24日 第1刷発行

企画・編集	趣味カルチャー事業室	発行人	鈴木昌子
編集	EDing Corporation	編集人	長崎有
編集スタッフ	谷伸子・小島優貴・小出彩奈・ 多田あゆみ・武井誠	編集担当	早川聡子
デザイン	谷伸子	発行所	株式会社 学研パブリッシング 〒141-8412 東京都品川区西五反田 2-11-8
写真	Shutterstock 木幡ちひろ	発売元	株式会社 学研マーケティング 〒141-8415 東京都品川区西五反田 2-11-8
		印刷所	凸版印刷株式会社

【この本に関するお問い合わせ先】

【電話の場合】

- 編集内容については 03-6431-1511(編集部直通)
- 在庫、不良品(落丁、乱丁)については 03-6431-1250(販売部直通)

【文書の場合】

〒141-8418 東京都品川区西五反田 2-11-8 学研お客様センター『世界の絶景 教会&寺院』係

- この本以外の学研商品に関するお問い合わせは 03-6431-1002(学研お客様センター)

© Gakken Publishing 2015 Printed in Japan

本書の内容、写真などの無断転載、複製、複写(コピー)、翻訳を禁じます。  
本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用であっても、  
著作権法上、認められておりません。複写をご希望の場合は下記までご連絡ください。

日本複製権センター <http://www.jrrc.or.jp/>  
E-mail: [jrrc\\_info@jrrc.or.jp](mailto:jrrc_info@jrrc.or.jp) Tel.03-3401-2382  
☑<日本複製権センター委託出版物>

- 学研の書籍・雑誌についての最新情報・詳細情報は下記をご覧ください。  
学研出版サイト <http://hon.gakken.jp/>